

V70a 東京大学アタカマ 1m 望遠鏡進捗状況

本原 顕太郎、吉井 讓、土居 守、田中 培生、川良 公明、河野 孝太郎、宮田 隆志、田辺 俊彦、半田 利弘、峰崎 岳夫、三谷 夏子、酒向 重行、青木 勉、征矢野 隆夫、樽沢 賢一、内一・勝野由夏、中村友彦、利川興司(東大天文センター)、加藤大輔(東大天文教室)

東京大学アタカマ 1m 望遠鏡の進捗について報告する。これは科研費基盤 S「銀河系に於ける星間ガスのイオン化状態の大域的構造と星 - ガス循環仮定の定量的研究」(代表：吉井讓)に基づいて、東京大学天文学教育研究センターが南米チリ・アタカマ高地の標高 5640m のチャナントール山山頂に建設している赤外線望遠鏡である。

このサイトはその高い標高とアタカマの乾燥した気候のため、可降水量 (PWV) の平均値は 1mm と非常に低く、高い赤外線透過率が予想される。また、シーイングの中央値は 0."69 と鋭利な星像が期待でき、赤外線天文学に絶好の場所である。

望遠鏡の日本国内での仮組および試験は 2008 年 6 月に完了し、2008 年 12 月にチリに向けて出荷済で、山頂の基礎工事も開始している。2009 年 3 月にチャナントール山頂に望遠鏡設置が完了して、エンジニアリング・ファーストライトを迎える予定である。

本発表では 2008 年末より進められている、チャナントール山頂での望遠鏡の建設作業の進捗状況、及びに搭載される近赤外線カメラ ANIR と中間赤外線カメラ MAX38 の 2 台の観測装置の開発状況を報告する。